

第41回

市民と市長の

『青空』タウンミーティング

報告書



○期 日 平成23年10月30日

○会 場 コピス吉祥寺ふれあいデッキこもれび

武蔵野市

まえがき

武蔵野市では、市民が自らのまちを自らの手で創りあげていく市民自治の基本に立ち、市民と行政が一緒にまちづくりを進めていくプロセスを大切にしたいと考えています。

そのひとつの手法として、市民と行政が「同じ目線」「双方向」で、地域の課題や市政全般について率直に意見交換を行う場として、「市民と市長のタウンミーティング」を開催しています。

この会には、地域のまちづくりの拠点であるコミュニティセンターを会場として、市とコミュニティ協議会が企画・運営方法を協議し、協働して実施する「地域別タウンミーティング」、テーマを設定して、そのテーマの関連団体にご協力をいただきながら実施する「テーマ別タウンミーティング」、そしてテーマを決めないで実施する「青空タウンミーティング」がごございます。

平成18年からの2年間で、すべてのコミュニティ協議会との共催により、「地域別タウンミーティング」を計16回開催しました。その後、「商店街の振興」や「災害に強いまちづくり」「地域で支えあう福祉のまちづくり」「市民協働で育むまちづくり」「市民とつくる環境にやさしいまちづくり」「地域で育てよう！武蔵野の子ども」などをテーマとしたタウンミーティングを計9回、地域別の2巡目のタウンミーティングを計11回、屋外での青空タウンミーティングを4回開催いたしました。

今回は、コピス吉祥寺ふれあいデッキこもれびにおいて、屋外での「第41回市民と市長の青空タウンミーティング」を開催しましたので、その結果を報告いたします。

今後も、市内の様々な場所で、タウンミーティングを開催していくことにより、さらに多くの意見交換を行ってまいります。

武蔵野市長

邑上守正

概 要

1. 日 時 平成23年10月30日(日)
午後1時30分～3時
2. 場 所 コピス吉祥寺ふれあいデッキこもれび
3. 主 催 武蔵野市
4. 協 力 むさしの - FM
5. 参加者数 約110人(立見者も含みます)
6. 主催側出席者 市 長 邑上 守正
企画政策室長 小森 岳史
7. 司 会 むさしの - FM 宮原 靖子
8. 内 容 市政や地域の課題に関する意見交換

目 次

1. 発言の要旨.....	1
(1) 開会のあいさつ	1
(2) 当日の意見交換(要旨)	2
1. 国際交流協会について.....	2
2. 境こども園について.....	2
3. 放射能汚染への取り組みについて.....	4
4. 災害対策について.....	5
5. 放射能対策について.....	8
6. 放射能対策について.....	9
7. 放射能対策について.....	10
8. 平和の日制定について.....	11
9. 市独自の放射能対策について.....	11
10. 児童館の計画の案内について.....	13
11. マイホーム借り上げ制度について.....	13
12. 避難所運営組織の立ち上げについて.....	14
(3) 閉会のあいさつ	15
2. 当日いただいたご意見と市の回答・対応方針.....	16
3. アンケートでいただいた感想.....	21

— 付属資料 —

第41回「市民と市長の青空タウンミーティング」ちらし

1. 発言の要旨

(1) 開会のあいさつ

【市長】

皆様、こんにちは。本日は青空タウンミーティングにお集まりいただきましてありがとうございました。

このタウンミーティングも通算で今日が41回目になります。今まで多くの方に参加いただきまして、合計で3,000名を超える方に参加いただいております。その都度、タウンミーティングで出された意見や回答を報告集にまとめて、今こんな形で進めているんだということをまた皆様にお返して、これをもとに、また次のタウンミーティングにつなげていこうということを行っております。

さて、タウンミーティングも幾つかの種類ございまして、基本は、地域ごとにコミセンの皆様方と共催でやるというタウンミーティングをやっております。それに加えて、テーマ別、例えば子育てとか環境とか防災とかそういうタウンミーティングもやっております。今日は地域やテーマに限らず意見交換を行う、青空タウンミーティングということで、今回で5回目になります。毎回、屋外でやるものですから、天候が大変心配でございまして、テントを張っております。万が一ぱらついてきましたら、皆さんちょっと寄せ合ってください、このテントの中に入ってくださいと思っています。

今日は幅広いテーマについてぜひ皆様方から課題をいただき、あるいは、こんなことをしたらどうかというご意見もぜひ広くいただけたらと思っております。3時までの会になりますが、どうぞよろしく願いいたします。



(2) 当日の意見交換(要旨)

1. 国際交流協会について

【ご意見】

八幡町に住んでいる。武蔵境にある国際交流協会でボランティア募集の説明会に行った。内容は、留学生に日本の文化などを教えるために、少なくとも年に1回、家庭に招いて一緒にお食事をしたりするボランティアだが、入会金が2,000円だと言われた。私はボランティアで好意を提供するのだから入会金というのはおかしいのではないかと数回尋ねたが、生半可な気持ちで来る人がいるような説明だった。

どうしても納得いかないのので、市役所の交流事業課で話をしたら、課長か何かに連絡してみますと言われ、後日、再度訪ねたところ、上に通してあるが、返事はまだ来ませんと言われた。それなら、市から協会への1,000万円ぐらいの援助をやめることができないのか。

【市長】

公益財団法人武蔵野市国際交流協会(MIA)というのは、基本的には会員を集めて、会員の中で相互に助け合うという趣旨だと、私は理解しています。サービスを受ける側も、ボランティア活動をする側も、まずは会員になっていただくことが原則でございます。実は私も会員の一員になって、年会費を払っていますが、そうやってみんなで支えていこうというのが大原則でございます。

MIAの運営にあたっては、いろいろな事業の経費がかかりますので、市としても、費用を補助しております。ただ、運営についてはMIAにお任せしており、さまざまな運営方法については、理事会ないし評議員会で決定していますので、今日の課題はMIAにもお伝えして、ご理解を得られる説明ができるような形にしてほしいということをお伝えしたいと思います。

【ご意見】

三鷹の国際交流協会では翻訳のボランティアをしたときは、入会金は必要なかった。なぜ解決できないのか。

【市長】

もう一度確認、再整理をして、ご回答をきちんと説明するように伝えてまいります。

2. 境こども園について

【ご意見】

境に住んでいる。先日、境こども園についての陳情が、議会で全会一致で採決されたと思うが、長期計画の内容が、その後の文教委員会での行政報告を聞くと、ほとんど変わってないと私は受け取った。それでは、陳情や議会というのが、意味があるのかと思った。

あの陳情については5,561名の署名が集まっており、その民意が全然反映されていないのではないかと思う。「市民が主役の市政」と市長はよくおっしゃっているが、今回のことについて、市長はどう思っているのか、率直な感想をお聞きしたい。

【市長】

今ご質問いただいた境こども園というのは、今、武蔵境地区にある市内唯一の公立幼稚園である境幼稚園を、以前より、発展的解消を図っていこうという方向で考えておりました。そしてそれは、こども園という形で、幼児教育と保育園の機能をあわせたような新しいタイプの子育て施設に変えていくことになりました。

そして、こども園に変えるに当たりまして、施設の建て替えが必要となりますが、現在、幼稚園に通っているお子様以上の人数を受け入れるため、建物の面積が増えるということもあり、建て替え計画の中では、園庭を若干削らざるを得ないことを提案したところでございます。しかしながら、境幼稚園の関係の皆様からは、境幼稚園では、子どもを遊びながら学ばせよう、育てようという理念でしたので、なるべく現状の園庭を確保してほしいといった陳情をいただいたところでございます。

陳情をいただいた後に、我々も施設の工夫や整理をし、現状に近い形での園庭を確保するために再検討を行いました。ただ、現状と同じ数字にはなれなかったのですが、こども園の目的から、現在の計画をぜひ実行したいということで、議会にも説明いたしました。

議会の委員会の中では、全会一致で陳情採択されましたが、その後の議会の中では、園庭というのはある程度削減してもいたしかたないが、その中で最大限、今まで培ってきた境幼稚園の良さを継承してほしいとの議員の皆様からの意見をいただきましたので、それを踏まえて、できる限り園庭を確保したうえで、計画を進めるということにさせていただきました。

ただ、園庭の設計は、今後も多くの皆様のご意見を伺いながら、さらに詳細を詰めてまいります。まずは、これから、境幼稚園について具体的にどのように考えていくのか検討を行う委員会を設置いたしました。その中でも保護者の皆様、現役の境幼稚園の関係者の皆様にご参加いただいて、より良いこども園づくりをこれから目指していきたいと考えています。

【ご意見】

その委員会では、まだ園庭を広げる話はなく、行政報告でいただいた図面のままである。園庭が広くなるということは、今後ないという認識でよいか。

【市長】

建物自体は、現在計画の建物をぜひ建てていきたいと思っております。園庭の面積も基本的にはその面積の中で、どうやって今後作り込んでいくかについて、最終的に皆様と話し合っていきたいという考えです。

【ご意見】

私は納得していない。要は民意が反映されていないように私たちは感じたが、市長は、それに対してどう思うかをお聞きしたい。

【市長】

いろいろなご意見があるかと思えます。いただいたアンケートの中でも、すべてのご意見が反対ではなくて、ある程度、理解をいただいている方も多々いらっしゃいました。

市が勝手に計画を進めるということではなく、これからも委員会の中で、様々なご意見

を聞いて、よりよい園庭の姿というものを実現してまいりたいと考えております。

3. 放射能汚染への取り組みについて

【ご意見】

吉祥寺本町に住んでいる。東日本大震災、福島第一原子力発電所の事故を受け、首都圏にも放射性物質による汚染が進んでおり、これから数十年にわたって長く付き合わなければならない。そういう放射能汚染に対して、武蔵野市として食品や土壌や水の測定のできるゲルマニウム検出器を導入して、より詳細な汚染状況の把握や、子どもたちが食べる学校給食の食品の安全の確保、それから、市内で作られている農産物の保護に取り組んでほしい。

また、公用として計測に使用する以外に、例えば市民が登録制で使えるような測定所などの仕組みづくりなど、近隣の自治体では既に実現され始めている。武蔵野市としては、どのようにこの問題に取り組んでいくのか。

【市長】

原発事故に絡む放射能汚染については、市民の皆様の安全・安心のため、まずは原発事故直後から、市民の皆様に供給している水道水の測定を始めたところでございます。

その後に、空間放射線量の安全性を問う声もあり、市独自に測定機器を購入し、8月から、市内の70カ所のさまざまな場所で測定を行ってまいりました。また、子どもたちの食の心配もございましたので、小学校、中学校給食の食材、それから保育園の食材については、専門機関にお願いして測定しております。現在でも測定をし、先日、牛乳の数値が高かったということで、一部使用を見送った経過もございます。

そして、今、課題となっておりますのは、全般的に空間線量については安定的な数値になっているけれども、新聞報道等でもご存じのとおり、部分的にはかなり高いところもあるのではないかとご心配を多々いただいています。市としても今、体制を整えておまして、特に公共施設については、課題となるような場所をもう一度、測っていかうと思っています。その結果、ある一定程度、高い数値が測定された場合には除染をしていく形で、今、体制を整えております。

そしてさらに、先ほど最後のご質問にありました機器の貸し出しにつきましても、基本的に、さまざまな課題をご指摘いただければ、公共施設については市の責任で測定をしていきたいと思っておりますが、機器をある程度保有して、それを皆様に安全の確認のためにお貸しするような仕組みも検討しているところでございます。

さらに、食材の測定機器でございますが、これはかなり専門的な測定も必要ですので、



基本的に給食の食材等につきましては、今後も専門機関に測定をしてもらおうと考えています。

いずれにしましても、この先、長期に渡る取り組みが必要でございますので、我々もきちんとした測定をし、市内の状況を把握し、必要な対応をこれからも進めていきたいと考えております。

【ご意見】

先日の牛乳の件に関しては、予防原則にのっとり、かなり迅速な対応をされていたと私はすごく感銘を受けた。これからもそういった素早い対応をするために、サンプル数を増やしたり、検査スパンを短くし、なるべく全食を測るような、そういった仕組みが必要ではないか。特に今回、予防原則による対応がとられたので、ぜひ今後ともそうしてほしい。

4. 災害対策について

【ご意見】

吉祥寺東町に住んでいる。災害対策について、2点ほど伺いたい。

1点は、避難所の問題。今、市の災害時の対策では、発災のときの避難民の数が4万9,000人と算出されているが、それに対して市内の避難所の数は、市内の小中学校、高校等で20カ所なので、一つの避難所に平均2,500人という数が集まるという想定をしていると思う。

しかし実際、1カ所で2,500人の避難者が集まるというのは、とてもコントロールできる数ではない。集まったら大変なことになる。

今の市の災害に対する計画というのは、災害発生時のいろいろな問題を中心にしてはいるが、災害に対する対策というのは、防災までいかなくても減災ということを主に、今後進めていかないと困ると思う。そうすると、避難民を出さない方策、それには個々の家の耐震化を進めるということが、一番大事だと思う。

また、ライフラインが絶たれた場合に、避難所に来ていない人たちをどのように支援していくか。その方策が今のところ、あまり伺えていない。

市では、どこか1カ所へ人を集めてやろうという考え方だが、その基本的な考え方が切りかわっていかないと、これだけ人口が密集したところでは対応できないと思う。

それからもう一つは、実際に3月11日のときに震度5弱で様々な問題が起きたが、基本的には、市の災害対策本部は震度6にならないと発動しないと聞いた。

ところが、3月11日の震度5弱で、私の住んでいる吉祥寺東町でも家が壊れるのではないかと不安になり、かなりの人が外へ出てきて、それから一部の方は避難所を求めて、最後は市で図書館をあけていただいて、一晩そこへ避難したということがある。

要するに、災害が起きたときの市民のパニックにどうやって対処するか。実際に震度6にならないと立ち上がらない災害対策本部では、これに対処できないと思う。

震度5弱でも、パニックは一部起きていた。コミセンに集まった人たちは、あのときになかなか家へ帰らなかった。皆さん家が心配だが、家へ帰るよりも、みんなと一緒にいたほうが安心できるということだった。そういう心理的なパニック対策も含めて災害対策を、減災、防災の対策を伺いたい。

【市長】

市内には20カ所の避難所があります。皆様は、どこに避難したらいいかご存じでしょうか。多分、近くの小中学校であることは認識いただいているかもしれませんが、必ずしも、そこに避難しなければいけないということではないんですね。その状況によって、ご自身のいるところから一番安全に避難できる避難所に行ってくださいということなんです。



ただ、一つ誤解がございまして、「地震だ、すぐ避難所に行こう」ということではなく、例えば、家が倒れそうとか、家具が倒れてきたとか、家の中にいるのが大変不安で危ないときに、避難所に避難いただきたいんですね。家が何でもない、家具も倒れてないし、電気も通じているという状況の中で、まず避難所に行こうということではないということをまずご理解いただきたいと思っています。

4万9,000人の避難者想定というのは、東京都からのさまざまな被害想定をもとに設定した数字でございまして、今後、東京都も再度見直していく方向ですので、東京都の防災計画の指針を見直した後、武蔵野市の地域防災計画も見直す予定でございまして。今年度は今年の3月11日以降の振り返りをして、課題を整理しておりますので、来年度には地域防災計画を見直し、この避難者数等の整合をとっていきたいと思っております。

そして、避難所の位置づけ、整備も必要ですが、皆様には、各お住まいの建物をぜひ耐震補強していただきたいと思っています。家が崩れなければ、自分の命も守れるし、あるいは家具転倒防止金具機具をきちんとつけていれば、ある程度のけがも防げますので、まずはお住まいの家の耐震補強を、チェックしていただきたいと思います。

今、武蔵野市では、耐震に関する診断について、無料の取り組みをしておりますし、その後、何かしら耐震上の課題があった場合、耐震補強についての補助制度もございまして。集合住宅についての耐震診断の補助制度も設けておりますので、集合住宅、マンション単位でもご相談いただけます。ぜひご活用いただき、耐震性のある建物づくりに協力いただきたいなと思っています。

そして、もう一つ、大きな地震が起こった時に、どうやって地域の皆様の安否を確認していくかが課題となっております。一つは、災害時に要援護者となるような方々の安否確認につきましては、現在、取り組みを進めております。災害時要援護者支援事業という制度を行ない、これは地域の民生委員の皆様、あるいは地域福祉の会の皆様を中心に、ネットワークを構築していただいております。おおむね今年度中にはそのネットワークも構築できます。要援護者というのは高齢者で介護度の高い方だとか障がいのある方とかですが、まずは自ら避難が困難な方については、ある一定程度のネットワークができていないかと思っております。

ただ、地域の皆様がどうかという確認につきましては、全ての地域のネットワーク化はされておられません。市としての総合的なネットワークというのは、なかなか難しいという

ように判断しておりますので、これこそ、地域の皆様にご相談いただいて、ある程度のコミュニティの中で、ネットワーク化をぜひ推進していただきたいと思っています。その核となるのがコミセンであったり、地域福祉の会であったり、自治会であったり、町内会であったり、さまざまな団体の単位があるかと思いますが、その中でのネットワークということをぜひ研究いただきたいと思っております。

そして、市の災害時の態勢についてですが、震度6以上でないと、災害対策本部を設置しないのではなく、被害の状況に応じて設置をするということが大原則でございます。現に3月11日には震度5弱でしたが、これは武蔵野市始まって以来、初めて災害対策本部を設置し、対応しました。必然的に設置されるのが震度6を超えるときですので、それ以外には状況によって判断しているところでございます。

また、現在は、市役所の業務がない夜間、休日につきましては、震度5弱の段階で、初動要員が避難所に駆けつけるということになっておりますが、その仕組みも、一方で、市役所が開いているときに震度5弱の地震が発生した場合は、初動要員は避難所に駆けつける仕組みではございません。その辺が、不整合があるのではないかという意見もあり、これについては課題として、地域防災計画の中で改めて整理をしていきたいと思っております。

パニック対策というのはなかなか難しいのですが、これは、情報が伝わらないことが不安につながっていくかと思っております。今回も情報が、市民の皆様にも正確に的確に伝わってなかった反省もございますので、さまざまな情報伝達手段を多用していこうと考えています。

今回のタウンミーティングも、むさしのFMに協力いただいておりますけれども、むさしのFMも貴重な情報伝達手段の一つでございますが、今回、サイマル放送という形で、インターネットからむさしのFMを聞くことができるようになりました。ぜひ今後ともご活用いただきたいと思っております。

【司 会】

今年には東日本大震災がありましたので、皆様も、やはり災害対策、不安に思っていることもたくさんあると思います。昨日、小金井公園を広域避難場所に指定している武蔵野市、小金井市、小平市、そして西東京市、4市の合同防災訓練や、地域ごとの小中学校などを利用した初動訓練なども行いました。この辺の報告を市長からお願いします。

【市 長】

その前に、避難所の運営について、まだ全部の避難所につきまして運営組織が確立していないんですね。市役所の職員の初動要員は決まっておりますので、すぐさま駆けつけるのですが、その後の避難所の運営というのは、地域の組織がまだ確立されていないところが多くございます。市内では今、4つないしは5つぐらいの避難所について、自主防災組織の皆様で運営組織の立ち上げをいただいているところでございます。地域ごとにぜひ、そういう取り組みにもご理解いただいて、ご参加いただきたいと思っています。

そして、訓練というのは極めて基礎的なことを行います。いざというときには、その基礎的なものを踏まえて、応用力を持って対応していくというのが大原則だと思いますので、

様々な訓練にご参加いただきたいと思います。

昨日、東京都の主催で4市がそれに共催をするという形で、小金井公園を会場に、大規模な防災訓練を行いました。昨日のテーマは、自助・共助での取り組みであります。自助というのは、まずは自分の命は自分で守るという趣旨から、ご自宅での安全対策を徹底していくということでございます。共助というのは、地域でのさまざまな連携をもって、協力してお互いに助け合うということで、その訓練も昨日させていただいたところでございます。皆様には、これからも自助・共助という取り組みという視点を持って、それぞれの地域から安全なまちづくりに参加いただければと思います。

昨日は大規模な訓練を行いましたけれども、今後も地域ごとにさまざまな防災訓練を行っていく予定でございますし、また、来年1月早々にはボランティアセンターの立ち上げ訓練を市民文化会館で行う予定でございますが、節目節目の訓練にも、どんなことをやっているのかなということを、ぜひご覧いただけたらなと思っています。

【司会】

むさしのFMは、災害時なども常に、武蔵野市の災害情報などをいち早く、武蔵野市役所の防災課のすぐ隣にある緊急放送室から皆さんにお伝えすることができるような状態になっております。インターネットまたは78.2メガヘルツですので、災害時には常に聞けるような状態にしていいただければと思います。

5. 放射能対策について

【ご意見】

中町に住んでいる。3点ほど聞きたい。

1つは、先ほどの放射線の対応だが、小学校の給食は、毎日ではないが、全食材についてベクレル表示、検出なしという形でホームページで結果が出ているが、保育園に関しては、抜き打ち的にごく一つの食材だけを取り上げている。それと無認可保育園に関しては、何も行っていない。これは子どもの人権に対しての一種の差別ではないか。保育施設についても小学校並みに食材をチェックするべきだ。公営じゃないということで、問題はあるかと思うが、何らかの対策が必要ではないか。

もう1点は、国の基準が緩すぎる。今、暫定だという形だが、いつまで食材500ベクレルを乳幼児や小学生、18歳未満の子どもに許容していくのか。例えば、松本市の市長は、給食は40ベクレルだと宣言している。ベラルーシでも37ベクレル、ウクライナで40ベクレルであり、500ベクレルとか200ベクレルという基準は、もう桁違いだ。

武蔵野市は最先端という形をとるならば、声を大にして、厳しい基準を示し、武蔵野市は子どもの食材については万全を期して対応するという宣言をしてもらいたい。

3点目は、昨日、私の簡易線量計で、自分の周り小学校までの間とか保育園、図書館の周りを測ったところ、図書館のすぐ北の公園の図書館側で0.29だった。除染対応になっている0.23ミリシーベルトの基準値というのも緩いが、やはりホットスポットがある。通学路でも道路際で、除染対応になるような場所が見受けられる。これを市の職員の方を総出で除染するのは大変難しいのではないか。

なので、高価な線量計ではなく、簡易の線量計を市で多く購入し、これを市民の人にボランティアで協力してもらい、徹底的にホットスポットを探し、それを撲滅してほしい。公共については市のほうが責任を持ってやるとしても、道路の側溝とかそういうところの除染は市民の力を借りるしかないと思う。その仕組みづくりを早急に進めてもらいたい。

今は3月の爆発以降でも空間線量が増えているという話もあり、これから長い間、放射線にはつき合わざるを得ない。しかし、国の基準とか国の御用学者さんの言っていることは、多分半分以上の方は信用してないと思うので、何らかの武蔵野独自の取り組み、独自の基準をつくって対策を取ってもらいたい。

【市長】

まず1点目の、放射線量の測定については、市内各所で行っていますけれども、基本的には公共施設で測っており、民間の保育園までは、まだ測っていません。ただ、要望があった場所の空間線量については測っておりますけれども、食材までは測っていません。その辺は課題だと思いますので、保育園の皆さん方のご要望を聞きながら、どのようなことが可能なのか考えていきたいと思っています。

それから、基準を武蔵野市独自で、これがなかなか難しいなというふうに思いますけれども、必ずしも私も、国の基準すれすれまで我慢しようとは思ってないので、その場その場で、今回も牛乳の件はそうでしたけれども、心配があれば、すぐとめようという姿勢で考えているところでございます。

市独自の基準というよりは、この周辺地域はつながっておりますので、できれば、同じような考え方で対応できたらと思っておりますので、周辺自治体とも連携をしながら、その辺の考え方をもう一度整理していきたいと思っております。

それから、線量計を市で持って、皆様に貸し出して測定をお願いしたらどうかというのも一つのアイデアだと思います。市では、何台か空間線量計等を購入して、ご心配されている方にはそれをお貸しして、測っていただくような、そんな仕組みを早急に設けていきたいと思っております。

原則、公共施設については、市がきちんと責任を持って、信頼性の高い機械で、測っていきたく思っております。先ほどの、独自に測られて、数値が高い箇所や、ご心配な点は、市にご連絡いただければ、そこで必要な対応をしていきたいと思っております。

いずれにしましても、放射線の問題は、すぐに解決できないと思っておりますので、今後の中長期にわたる取り組みにつきましては、今いろいろなことを我々も試行錯誤しておりますし、さまざまな情報も得ながら検討しておりますので、ぜひこれからもいろんなご意見を聞きながら、皆様の不安が少しでも解消できるような取り組みについて、検討していきたいと思っております。

6. 放射能対策について

【ご意見】

吉祥寺本町に住んでいる。原発事故対策についてお願いしたい。

やはり被曝は少なければ少ないほどよいという原則に基づいて対応していくという姿勢を明確にさせていただきたい。給食の検査で、数値の高かった牛乳をとめていただいたのはすばらしい対応だった。放射性物質を取り込みやすい食品というのがあると聞いているので、専門機関に測定を依頼する体制を当面考えているなら、取り込みやすい、危険の可能性が高いものから測っていくなど、より危険を防ぐための対応を考えてほしい。

また、落ち葉などの堆積物から高い放射線量が計測されていることを受けて、落ち葉たきとか落ち葉のプールの実施を見送っているという報道がされている。例えば学校教育の現場で、落ち葉をたく機会とか、あとは落ち葉を堆肥として利用するということが今まであったと思うが、武蔵野市では、例えば落ち葉の放射線量を検査するとか、危険の可能性があるので避けるということを考えているか。



【市長】

食品につきましては、ご説明しているとおおり、今までの取り組みをまずは継続していくということと、また新たな課題については、臨機応変に取り組みを考えていきたいと思っています。

それから落ち葉については、現状では例えば市役所のほうで落ち葉の堆肥化を頼む業者があり、その業者が測っている限りには心配はないのですが、ただ一般的に落ち葉等については、数値が上がっていることが想定されるので、本年度については堆肥化を少しストップさせていただこうと考えています。たまっているところは、その数値も上がっているかと思っていますので、慎重に考えていきたいと思っています。

7. 放射能対策について

【ご意見】

関前に住んでいる。放射線のことで、すべての子ども施設の細部にわたる土壌調査と、リアルタイムの給食の測定の公開ということをお願いしたい。

空間線量と土壌の線量が必ずしもリンクはしていないと思っている。実際、私の子どもが通っている園で、0.06という普通の空間線量だったところで、土壌を調べたら、セシウムの合算で300ぐらい出ている。これは園で、土の除去をしたら0.03まで下がった。空間線量だけをはかって、そこを除染する、しないということではなく、子どもが通う施設に関しては、土壌を実際採って検査をしてほしい。

あと食品、給食に関して、先日の牛乳のことは、本当は8日間ぐらいかかる検査が、たまたま6日間で上がってきて、それで当日の牛乳の使用を取りやめることができたと言っている。やはり外部機関に頼んでいることが限界だと感じている。

専門家の間では、1年後から食品の汚染が深刻になってくるというので、食品の検査も

できる計測器の購入を検討し、早急に武蔵野市の給食、土壌の検査に取り組んでほしい。

【市長】

基本的には、先ほどからお答えをしておりなのですが、外部空間においては、基本的に空間線量の変化を注視し、必要に応じて土壌等もやっていくべきではないかと思っておりますが、いろいろな検査の測定の中で、課題が少しでも顕著になったところは、積極的にそういう対応をしていきたいと思っています。食材につきましても、当面は今、専門機関に依頼しておりますけれども、この状況がいろいろ課題として広がるようであれば、それに対応した取り組みについてぜひ研究を進めたいと思います。

8. 平和の日制定について

【司会】

11月1日号の市報に載る予定ですが、武蔵野市平和の日が制定されたと伺っておりますが、この武蔵野市平和の日というのはどういう日なのでしょうか。

【市長】

既にご存じの方も多いかと思いますけれども、今年の11月24日から武蔵野市平和の日というのが始まります。実は武蔵野市というのは、戦時中に中島飛行機武蔵製作所という大きな軍需工場があったんですね。零戦のエンジンをつくっていた大きな工場で、最盛期には従業員が5万人規模の大変大きな工場でした。そのため、米軍の本格的な攻撃の第1目標になってしまったんですね。昭和19年11月24日にサイパンから飛び立ったB29の110機を超える編隊が、この中島飛行機の爆撃を目指してやってまいりました。そして正午、12時過ぎに爆撃が始まって、1回目の爆撃で50数名の方が亡くなったという歴史がございます。その空襲はその後、9回にわたって続くわけでございますが、武蔵野市にとっての初空襲であったし、この後、本格的な本土空襲への第一歩になったということもありますので、この歴史というのを子どもたちにも伝えていかなければいけないという思いから、11月24日を武蔵野市平和の日に制定いたしました。

前日の23日には、公会堂で記念講演会を行います。そして、24日の当日には、都立武蔵野中央公園の入り口付近で、記念の植樹を行う予定でございます。ぜひそういったイベントにもご参加いただきたいと思います。



< 記念植樹後のバルーンリリース >

9. 市独自の放射能対策について

【ご意見】

吉祥寺東町に住んでいる。先ほどの放射線の対応について、周りの市町村との調整をしながらという市長の発言にがっかりした。地方自治ということを考えると、これは市民の中で決めることのできる話である。国の暫定値ではなく、最終的には地方自治の、例え

ば武蔵野市放射線防護条例のようなものをつくってもらいたい。先ほどの牛乳の話など、独自でやられているのは大変すばらしいが、それは市長の裁量の範囲で決められたということになる。そういう時期に来ている。もういつまでも暫定ではいけない。その辺の市長の見通しが大切だ。いろいろなしがらみの中で、国が言っているからとりあえずというのか、ほかの市町村でも先進的なところは、そういう形で子どもを特別に、まずは大人並みではなくて、子ども用の基準を設けるのが筋だと思うが、どうもそういう流れがない。まずは子どもの食品の基準値を独自に決めてもらいたい。

【市長】

国の基準はまだ暫定基準ということで、確かにいかなものかと思われるかもしれませんが。私もさまざまな専門書も読みながら、いろいろ見えますけれども、ただ専門的な知見がないので、独自の判断は難しいです。松本市の市長は医師なので、それなりの見識を持った判断ができますけれども、私はできないので、専門的な方にいろいろ聞いています。市では今、対策としてプロジェクトチームを編成しております。



そのチームのアドバイザーとして、赤十字病院の放射線の先生にも入っていただいて、専門的な見解を伺っております。その先生の意見を聞きながら、今までの対応もしておりますので、当面はそういうやり方でいかなるを得ないかなと思っております。

先ほど申しましたとおり、暫定基準すれすれでいいとは思っていませんので、なるべく子どもたちには少ない量というような方向で、今後も取り組んでいきたいと思っております。

【ご意見】

武蔵野市のアドバイザーの日赤病院の星先生の勉強会に行ったが、先生は外部被曝のことを非常に重要視されているように感じた。低線量被曝でどれぐらいの害が出るかという累計が今、実は日本では持っていないという。データがないということで、低ければ低いほどいいと思う。そういった中で、内部被曝を重要視される先生にも参加してもらいたい。

【市長】

いろんな専門家の意見、聞くことは必要だと思います。星先生もいらっしゃるんですが、食品関係についても、地元でいえば、獣医生命科学大学の食品の専門の方もいらっしゃるの、さまざまな先生方に今後ご意見を聞いていこうという姿勢であります。

それから、できますれば、皆様と一緒に学ぶ機会を増やしていきたいと思っておりますので、そういうさまざまな考え方を持った先生方にお集まりいただき、順番にお話を聞くことも、今後、予定をしていきたいと思っておりますので、そういう場にも参加をいただいて、共に学んでいければと思っております。

10. 児童館の計画の案内について

【ご意見】

境に住んでいる。先日、児童館の今後の説明会に行った。そこでは、児童館が今後どうなるかは第五期長期計画に載っているのだから、それをご覧くださいと言われて、市報と一緒に配られた長期計画案には、0123にした後、桜堤保育園の分園に、ぐらいいのこしか書いてなく、もっと詳しいのは冊子をごらんくださいと言われて、その冊子も読んだが、そこにも全く同じことしか書いてなかった。

そういう行政の職員の不誠実な対応について、どのように考えているか。

【市長】

長期計画につきましては、策定委員会で今、検討いただいておりますので、まだ策定委員会による案の取りまとめ状況でございます。

昨日まで、その案をもとに、市民の皆様から、意見交換やワークショップ、パブリックコメントなどにより様々な意見をいただきましたので、それを踏まえて、最終的な答申案をまとめていただくことになっております。概ね、11月ぐらいに市に提出をいただいた後に、今度は私どもの責任で、市の計画として定めていくということでございます。

まだ策定委員会の案の段階では、確におっしゃるとおり、桜堤児童館については、一つは0123にしていこうという話があるのですが、ただ、今後の状況を見ると、桜堤地区ではかなり子どもの数が増えていくという予想もある中で、桜堤保育園の一時的な保育園児の増大に対応する、暫定的な取り組みが必要ではないかという議論をいただきました。その中で、提案の一つとして、児童館を一時、桜堤保育園の分園とするような対応をしたらどうかという提案なので、それはもう少し整理が必要かもしれませんが、基本的にはそういうことで答申を受けることになるのではないかと考えています。それで答申を受けた後に、具体的な市の計画として考えていくということになると思っています。

11. マイホーム借り上げ制度について

【司会】

武蔵野市の市報からですが、10月15日号の市報の1面になっていましたマイホームの借り上げ制度というのが、武蔵野市で創設されたというふうに書いてありましたけれども、これについて教えていただいてもよろしいですか。

【市長】

マイホームの借り上げ制度という新しい制度をスタートいたしました。というのは、市内を見ますと、空き家が結構見受けられるということと、それから、広い住宅に高齢の方が少数でお住まいになっていて、広すぎて逆にちょっと不便だという話も伝え聞いた場面がありましたので、そういう大切な住宅の資源を、例えばファミリー層に貸していただけないだろうかというような話が進んだ結果、市の外郭団体である開発公社が仲介して、該当する住宅をファミリー層に貸し出すという取り組みを始めております。



市の外郭団体が中に入りますので、極めて安心していただける物件ではないかなと思いますし、さまざまな保証金とかそういうのがないので、家賃等につきましても、結果的に家賃相場の一、二割は安く設定できるということから、ぜひこの制度を活用いただきたいなと思っています。

12. 避難所運営組織の立ち上げについて

【ご意見】

中町に住んでいる。災害時に学校が避難所になるということだが、今、3つか4つの学校しか、避難所運営組織を立ち上げてなくて、中でも境南小学校が一番進んでいるということを知っている。今、私の住んでいる地区は井之頭小学校だが、全く初めてのところから組織を立ち上げようとしていて、もし境南地区の方が、いろいろ相談に乗ってくれたり、概要をいただいたりできれば、とてもありがたい。本当に手探りの状態から、コミセンとかPTAの父親とか青少協とか、それから学校の先生とかが集まって、やり始めたところで、どうやって避難所をスムーズに運営していったらいいのかということを考えているところなので、もしそういうお手本になるものがあったらお話を聞きたい。

【市長】

まだ、市内では全部、避難所の運営組織が立ち上がっていないので、ぜひ皆様もそういうところへ関心を持って参加してください。参考としては、おっしゃるとおり、境南小地区の自主防災組織はかなり先行して、取り組みが進んでおりますので、そういう取り組みも参考にしていきたいと思っております。市の防災課もその辺、周知しておりますので、まず防災課にご連絡いただき、必要に応じて、境南の皆様にもアドバイザーをお願いしたいと思っております。

(3) 閉会のあいさつ

【市長】

皆様方のいろんなご心配事、この場に限らず、どんどん言ってください。それがヒントとなって、様々な施策に生まれ変わっていくと思っています。今日は満足した回答が得られなかったかもしれませんが、しかし、課題として認識しておりますので、また指摘いただきたいと思っています。

それから最後に、避難所の運営についてということで、その取り組みを始めているというお話もいただきましたが、安全・安心というのは、市役所だけではなかなか取り組みができませんので、地域の皆様方も、地域でのさまざまな課題にぜひ参加いただいて、ともに安全・安心なまちをつくらせていただけたらと思っています。

武蔵野市ではこれから来年度の予算編成に入るわけでございますけれども、安全ということは極めて大きなキーワードだと思っています。そういうキーワードをもとに、より一層、皆様方が魅力的で過ごせるような形の、安心して暮らせるような、そんなまちづくりをこれからも進めてまいりたいと思っています。

本日はご参加いただきましてありがとうございました。



2. 当日いただいたご意見と市の回答・対応方針

(※アンケートでいただいたご意見も含みます)

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
1	武蔵野市国際交流協会	武蔵境にある国際交流協会ボランティア募集の説明会に行った。内容は、留学生に日本の文化などを教えるために、少なくとも年に1回、家庭に招いて一緒にお食事をしたりするボランティアだが、入会金が2,000円だと言われた。私はボランティアで好意を提供するのだから入会金というのはおかしいのではないか。	<p>武蔵野市国際交流協会(MIA)では、在住外国人の生活の支援と市民主体の国際交流により相互理解と多文化共生を図る活動を、外国人と市民双方による会員の協力で実施しています。</p> <p>運営にご協力をいただける方には、まず会員となって活動と共に協会の維持運営についても支えていただく形をとっています。なお、一時的なお手伝いを会員以外の方にお願いくことはありますが、他市所在の国際交流協会も会員制としてほぼ同じ運用を行っています。</p> <p>市では、財政援助出資団体に対し運営経費についてある程度の自立努力を求めているところです。MIAでは語学教室など一部を安価ながら有料講座としていますが会費収入をあわせても経費の6%程度しか賄えず、不足する部分は市が補助を行っています。</p> <p>MIAでは、団体運営の趣旨をご理解のうえ多くの方のご支援をいただきたいとのことです。</p> <p>今後の会員募集にあたっては、パンフレット等の記載を含め、趣旨とシステムのよりわかりやすい説明をお願いします。</p>
2	子ども園	境こども園についての陳情が、議会で全会一致で採決されたと思うが、長期計画の内容が、その後の文教委員会での行政報告を聞くと、ほとんど変わっていないと私は受け取った。	<p>陳情については、その内容を真摯に受け止め、今後の境こども園の保育内容や運営にできるだけ反映していきます。施設や園庭などハード面では複合的な機能をもつこども園という特殊性を鑑みつつ、一部設計見直しも行いました。また、地域協議会を発足させ今後も保護者や地域の住民の方、市、子ども協会と、こども園の保育や事業内容について協議していきます。</p>
3	児童館	児童館が今後どうなるかは第五期長期計画に載っているのですが、それをご覧下さいと言われて、市報と一緒に配られた長期計画案には、0123にした後、桜堤保育園の分園に、ぐらいいのこしか書いてなく、もっと詳しいのは冊子をごらんくださいと言われて、その冊子も読んだが、そこにも全く同じことしか書いてなかった。	<p>平成22年2月に策定いたしました「第三次子どもプラン武蔵野」では、桜堤児童館を0123施設とする計画を、重点的取組として位置づけております。また「第五期長期計画」(案)の中でも、「将来的には0123施設として活用する。ただし、施設の一部については平成24年度に「プレこども園」として使用した後、周辺地域における保育需要も勘案しながら、桜堤保育園の分館的利用を検討する」とされています。これらの計画に基づき、小学生の放課後施策推進協議会において、児童館機能のあそべえ事業への移管について検討しているところです。</p> <p>なお、来年度以降、桜堤保育園の分館的利用の検討及び桜堤児童館施設を0123施設化する方法等について検討していく予定です。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
4	放射能対策	<p>東日本大震災、福島第一原子力発電所の事故を受け、首都圏にも放射性物質による汚染が進んでおり、これから数十年にわたって長く付き合わなければならない。そういう放射能汚染に対して、武蔵野市として食品や土壌や水の測定のできるゲルマニウム検出器を導入して、より詳細な汚染状況の把握や、子どもたちが食べる学校給食の食品の安全の確保、それから、市内で作られている農産物の保護に取り組んでほしい。</p> <p>先日の牛乳の件に関しては、予防原則にのっとり、かなり迅速な対応をされていたと私はすごく感銘を受けた。これからもそういった素早い対応をするために、サンプル数を増やしたり、検査スパンを短くし、なるべく全食を測るような、そういった仕組みが必要ではないか。特に今回、予防原則による対応がとられたので、ぜひ今後ともそうしてほしい。</p>	<p>市立小中学校の給食食材については、放射能汚染のリスクの高い産地のもので、使用量、使用頻度の高いものを優先して放射性物質検査を実施しています。これまでの検査の結果で放射性物質が検出された場合は、可能な範囲で産地を変更する等の対応をとっております。</p> <p>給食食材の放射性物質検査を対象とした測定器の購入については、現在の委託検査の課題を整理し、測定器の種類・性能・費用などについて調査するとともに、自主検査の効果や運用方法の可能性等について、研究してまいります。</p> <p>都内産の農畜産物の検査においては、厚生労働省が定めた「緊急時における食品の放射能測定マニュアル」に基づき、東京都農業協同組合中央会と東京都が構成する「都内産農産物の放射性物質の影響に係る対策会議」により、計画的に検査を進めています。</p> <p>武蔵野市の農作物は平成23年6月・8月・10月にコマツナ、24年1月にダイコンを検体として、東京都が採取し、検査結果が公表されました。検査結果は、放射性ヨウ素および放射性セシウムともに食品衛生法で定める暫定規制値以下、検査機関の分析による検出限界値未満「ND(＜検出限界値)」となっています。武蔵野市に隣接する区市町村の農産物も現在すべて、暫定規制値以下の結果となっています。</p> <p>また、農地については現在、農林水産省が、農地土壌濃度マップ調査を実施しています。東京都内の各自治体から1検体ずつ採取され、現在、公表に向けて地図を作成中です。</p>
5	放射能対策	<p>放射線の対応だが、小学校の給食は、毎日ではないが、全食材についてベクレル表示、検出なしという形でホームページで結果が出ているが、保育園に関しては、抜き打ち的にごく一つの食材だけを取り上げている。それと無認可保育園に関しては、何も行っていない。保育施設についても小学校並みに食材をチェックするべきだ。公営じゃないということで、問題はあるかと思うが、何らかの対策が必要ではないか。</p>	<p>武蔵野市内の認可保育所(公立・民間)では、主な食材の産地を考慮するとともに、放射線汚染のリスクの高いとされている産地の食材は、その使用頻度、使用量の多いものを優先し、毎週専門機関に放射性物質測定検査を委託しております。検査対象は現在使用中の食材ということになりますが、検査の結果を参考にして可能な限り安全な食材の選定に努めております。10月から公立保育園では保育園給食で使用した主な食材の産地を月ごとにまとめて園内に掲示しております。</p> <p>なお、検査した食材から「検査機器が測定できる定量下限値」を超える放射性物質が検出された場合、念のため他の産地又は他メーカーの食材に切り替えて運用しております。切り替えが困難な場合は他の食材を使用し、メニューの変更を行っております。</p> <p>現在、市場に流通している食材は国、各都道府県、各メーカーなど様々なかたちで検査が実施されているところですが、より安全安心な給食を提供するため、今後も定期的に放射能性物質測定検査を実施し、結果を公表してまいります。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
6	放射能対策	公用として計測に使用する以外に、例えば市民が登録制で使えるような測定所などの仕組みづくりなど、近隣の自治体では既に実現され始めている。武蔵野市としては、どのようにこの問題に取り組んでいくのか。	測定器の精度等を注視しつつ、近隣自治体の運営状況を調査し、導入が可能であるか検討していきます。
7	放射能対策	学校教育の現場で、落ち葉をたく機会とか、あとは落ち葉を堆肥として利用するということが今まであったと思うが、武蔵野市では、例えば落ち葉の放射線量を検査するとか、危険の可能性があるので避けるということを考えているか。	市では、今年度については新しい落ち葉による堆肥を作らないこと、国からの通達があった時点で堆積している堆肥は一般配布を行わないことなどの取り扱いを定め、平成23年10月、関係機関に通知しました。市立学校においてもこの通知に基づき資源化せず、処分することとしています。
8	放射能対策	空間線量だけをはかって、そこを除染する、しないということではなく、子どもが通う施設に関しては、土壌を実際探って検査してほしい。	市としては、放射線による外部被ばくの影響を推し量る目安は、その場所を支配する空間放射線量に依拠すべきと考えており、市の基準を超過した場所は除染等の低減対策を実施しています。土壌中の放射性物質濃度については判断基準が明確でない中で、測定や分析に要する時間や効果を考慮すると、今後の検討課題であると考えています。
9	放射能対策	(放射能の基準について) まずは大人並みではなくて、子ども用の基準を設けるのが筋だと思うが、どうもそういう流れがない。まずは子どもの食品の基準値を独自に決めてもらいたい。 (放射能対策について) 武蔵野市は最先端という形をとるならば、声を大にして、厳しい基準を示し、武蔵野市は子どもの食材については万全を期して対応するという宣言をしてもらいたい。	市としては、国やそれ以外にも信頼できる最新の知見や情報を収集し、周辺自治体とも連携しながら対応していきます。食品に含まれる放射性物質の基準について国は、現行の暫定規制値に代わり、更に厳しい新たな規制値を4月に適用することとしています。新規制値では、年齢別や性別、妊婦などに区分し、影響の受けやすさを考慮して数値を算出し、厳しい数値を出したとしており、今後新規制値が適用されれば、内部被ばく量も小さくなると見られます。 市立小中学校の給食食材については、放射能汚染のリスクの高い産地のもので、使用量、使用頻度の高いものを優先して放射性物質検査を実施しています。これまでの検査の結果で放射性物質が検出された場合は、可能な範囲で産地を変更する等の対応をとっております。内部被曝は低い方が良いと認識していますが、市独自の基準を設けるかどうかは、今後の検討課題であると考えています。
10	除染	高価な線量計ではなく、簡易の線量計を市で多く購入し、これを市民の人にボランティアで協力してもらい、徹底的にホットスポットを探し、それを撲滅してほしい。	市では簡易型線量計の貸出し制度を創設し、昨年11月より市民に貸出しを始めています。公共の場所が高線量との情報があれば、所管する関係各課と協議しながら低減対策を実施しています。

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
11	喫煙マナー向上	道路に煙草の吸殻のポイ捨てが後を絶たない。携帯用吸殻入れの携帯義務付けを強要するなど、街の汚染防止・防災に努めて欲しい。	市では条例制定による罰則規定ではなく喫煙者のマナーアップを進めていくこととしてきました。ご意見のように、携帯灰皿の携帯はもとより路上喫煙をしないようなマナーを持つべきと考えていますので、引き続き駅周辺の路上喫煙禁止区域内におけるマナー推進員による指導につとめてまいります。
12	防災計画	(災害時に)避難民を出さない方策、それには個々の家の耐震化を進めるといことが、一番大事だと思う。また、ライフラインが絶たれた場合に、避難所に来ていない人たちをどのように支援していくか。その方策が今のところ、あまり伺えていない。市では、どこか1カ所へ人を集めてやるという考え方だが、その基本的な考え方が切りかわっていかないと、これだけ人口が密集したところでは対応できないと思う。	市では、昭和56年以前に建築された民間住宅(旧耐震基準)を所有する方に対し、お住まいへ専門家を派遣する無料の簡易耐震診断を行っています。精密な耐震診断費用の助成や耐震改修工事費用の助成を行うことで、耐震化を促進し、災害に強いまちづくりを推進しています。 無料耐震診断、耐震補強への補助等による建物の耐震化を促進するだけでなく、家具転倒防止器具設置の啓発など、自宅での地震被害を低減するための取り組みを行っています。これらにより、自宅生活者を増やし、避難所利用者を抑制したいと考えています。 また、ライフラインが被害を受けた場合でも、家屋の倒壊や火災の危険がなければ、自宅生活を継続できる仕組みを検討しています。
13	避難所運営組織	(避難所運営組織について)全く初めてのところから組織を立ち上げようとしていて、もし(立ち上げ終わっている)境南地区の方が、いろいろ相談に乗ってくれたり、概要をいただいたりできれば、とてもありがたい。本当に手探りの状態から、コミセンとかPTAの父親とか青少協とか、それから学校の先生とかが集まって、やり始めたところで、どうやって避難所をスムーズに運営していったらいいのかというのを考えているところなので、もしそういうお手本になるものがあったらお話を聞きたい。	すでに何カ所かの地域で避難所運営組織を立ち上げたいという具体的な動きがあり、境南防災懇談会の役員や防災課職員等が、組織設立までの流れ及び避難所運営の手引き等について、地域からの要請により説明に伺っています。 地域の皆様がお集まりいただける機会には、ぜひ防災課にご連絡いただきたいと思います。
14	災害時の心理的支援	震度5弱でも、パニックは一部起きていた。コミセンに集まった人たちは、あのときになかなか家へ帰らなかった。皆さん家が心配だが、家へ帰るよりも、みんなと一緒にいたほうが安心できるということだった。そういう心理的なパニック対策も含めて災害対策を伺いたい。	地域防災計画見直しの最優先の課題として、災害時の的確な情報伝達手段の確保を取り上げています。 防災行政無線、防災安全メール、広報車、市HP、防災安全センターWEB等の情報伝達手段により、重層的に情報を伝達するとともに、避難所や公共施設等で掲示板を活用した広報を行います。適時的確な情報提供により、市民にパニックが発生しないよう努めます。

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
15	武蔵野の水	<p>水道水は、今までどおり井戸水を使ってほしい。徳川家康も好んだ水であるので、大事にしてほしい。吉祥寺の飲食店の発展は、この水のおかげである。珈琲にしても紅茶にしても、川の水と地下水とでは、かなりおいしさが違うので、続けてほしい。おいしい水があるので、武蔵野市に住んでいると言ってもよいぐらいなので。</p>	<p>武蔵野市水道水の8割は市内の深井戸から取水しております。安全でおいしい水を安定供給していくため、貴重な自己水源である深井戸の適切な維持・補修を続けて参ります。</p>
16	情報発信	<p>市民に情報を伝達する手段は、市報・チラシ・ポスターなどと思いますが、市民にしっかり伝わっていないと思います。山のようなチラシを作るよりも、もっと良い手段を考えるべきかと思えます。</p>	<p>市政に関する情報は、多くの市民に届くよう、チラシ・ポスターなどのほか、市報、ホームページ、FMラジオ、ケーブルテレビなど多様な媒体を活用して提供しています。これらの情報伝達手段を市民の皆さんに知っていただくための広報活動もあわせて行っています。</p>
17	タウンミーティング	<p>多人数である為、難しいかもしれませんが、議会方式の一挙手一発言では、なかなか議論が進みにくいかと感じた。その場で補足したい事項、掘り下げたい項目について、じっくり話し合えると良いと思う。</p> <p>屋外ということで心配していましたが、人数も少なく話しやすかったです。できればもっと市長を囲むリラックスしたミーティング場が設けられたらと思います。</p>	<p>タウンミーティングについては、今回のようなテーマを設定することなく、自由に意見交換を行う「青空タウンミーティング」のほか、「地域別」「テーマ別」のタウンミーティングを開催しています。</p> <p>テーマの設定や、少人数での懇談形式での開催については、より幅広くご参加いただけるよう、今後工夫していきます。</p>

3. アンケートでいただいた感想

(※アンケートの自由回答欄でいただいた感想のうち、主なものを掲載しています)

1	コピス前の人通りも多い場所で、出入り口の扉もないので参加し易い良い会場だと思います。BGMも流れていて、良い雰囲気でした。
2	出席者が少ないと思う。もっと広報をして、出席者を増やす工夫が必要と思う。
3	屋外ということで心配していましたが、人数も少なく話しやすかったです。
4	邑上市長の誠実な対応に満足しました。やや寒かった。
5	様々な意見、発言においての市長のお考えが聞けるので、いい機会です。
6	武蔵野市政についての見解がわかった。市長の発言(回答)もくわしい説明が良かった。
7	多人数である為、難しいかもしれませんが、議会方式の一挙手一発言では、なかなか議論が進みにくいかと感じた。

第41回 **市民** と **市長** の

青空

タウンミーティング



開催日時

10月30日 (日) 13:30~15:00

※小雨決行

会場

コピスふれあいデッキこもれび
(武蔵野市吉祥寺本町1-8-16)

-  申込不要です。
当日、直接会場へお越しください。
-  お車でのご来場は、ご遠慮ください。



内容

今回のタウンミーティングは、市長が週末の街角に出て、青空のもと車座形式で、地域の課題や市政全般について、意見交換を行います。

主催 武蔵野市

協力 むさしの-FM

問い合わせ

武蔵野市役所 市民協働推進課(西棟7階)
TEL0422-60-1829 FAX0422-51-2000

第41回

市民と市長の青空タウンミーティング

報告書

発行 平成24年3月

武蔵野市 企画政策室 市民協働推進課

武蔵野市緑町2丁目2番28号

電話(0422)60-1829 (直通)